

第42号&lt;2026年(令和8年)3月1日&gt;

自律自啓  
勤勉誠実・和協責任

# 東京青高同窓会

第48回総会・懇親会は5月10日（日）に上野精養軒で開催いたします。第一部総会に続き、第二部は講演会です。講演者は鈴木 祐太氏（青高51回）、演題「経営目線を見た青森の課題と生き残り戦略」です。

会報第42号は、電子版だけを発行しております（印刷とりのやめの経緯は特集記事を参照ください）。

## 東京青高同窓会 会長 あいさつ

### 勢い・成長・新しいものが生れ出る年に

東京青高同窓会 会長 永田雅之（青高31回）

2026年を迎えられ、東京青高同窓会会員の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

この一年を振り返りますと、2026年2月28日・3月1日に開催された青森高校同窓会入会式・卒業式に参加し、卒業生の皆さんへお祝いの挨拶と東京青高同窓会の紹介いたしました。239名の卒業生が希望を胸に抱き、新たなステージへとスタートされました。また、青森高校では初めてのAO入試での東京大学進学者をはじめとして優秀な卒業生がまた新しい未来へ挑戦していく姿に頼もしさを感じました。そして、5月11日（日）には、第47回総会・懇親会を上野精養軒で開催いたしました。対面での再開から2回目でしたが、当日は約230名の会員の皆様にご参加いただき、大盛会となりました。旧友や同窓との再会、世代を超えた交流、そして多くの笑顔が溢れておりました。当日は、青森高校校長 高橋秀樹様、青森高校同窓会会長 沼田廣様に来賓としてご参加いただいたこと改めて御礼申し上げます。ほか、多数のご来賓のみなさまにも、御礼申し上げます。また、当番幹事の50回生と受付幹事の35回生の皆様のご協力にもこの場を借りて感謝申し上げます。

2026年を迎えましたが、人口減少・少子高齢化は歯止めが利かず、緩やかな回復傾向にあると言われてお

りますが、諸物価の高騰、消費の鈍化はまだ続いている社会情勢です。本会におきましても、同窓会会員の減少、同窓会費収入減、コロナ禍以降の懇親会参加者減少により、会の運営が大変厳しい状況となっております。そこで誠に心苦しいのですが、会員の皆様にお詫びと報告がございます。まず、会報につきましては大幅な赤字の対策として、会報第42号の印刷を取りやめることを2025年9月の幹事会において決定いたしました。電子版での閲覧および印刷は可能となっております。次に、総会・懇親会の通常開催を行うために、懇親会参加費を従来の8,000円から10,000円へ値上げいたします。会員の皆様にはご不便をお掛け致しますが何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。



第48回総会・懇親会は、2026年5月10日（日）11時より上野精養軒で開催することになっております。第48回総会の受付担当回りは36回生、企画担当回りは51回生となっております。すでに企画や準備に取り掛かっておりますので、盛大に楽しみ、絆を深め

られる懇親会になるものと大いに期待しております。多数の皆様のご参加をお待ちしております。

東京青高同窓会は2年後に創設50周年を迎えます。記念総会に向けて、2025年9月の幹事会において、「第50回記念総会特別委員会」の設置が決められました。同委員会の体制や今後の日程については、総会にて報告させていただきます。また、会員管理の簡素化・業務負荷軽減と会員増強が必須課題となっております。新たな会員管理システムの導入も検討しており、本会の活動の本質的な側面より注力するためにも、事務的

な処理については、IT化を推進してまいります。

2026年は60年に一度の丙午であり、勢い・成長・新しいものが生れ出る年と言われております。伝統ある東京青高同窓会を未来永劫継承していくためにも、役員・幹事・委員の皆さんと協力し、東京青高同窓会の発展に貢献して参りたいと思います。会員の皆様におかれましては、これまでと同様に、ご厚情とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 青森高校校長 あいさつ

# 同窓の絆とともに歩む母校

青森高校 校長 高橋 秀樹

永田会長はじめ、東京青高同窓会の皆様におかれましては、平素より母校の教育活動に多大なるご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

去る5月に上野精養軒で開催された総会・懇親会に出席いたしました折、会場を包む皆様の圧倒的な熱量と、母校への溢れんばかりのエールを肌で感じ、深い感動とともに帰路についたことが、今も鮮明に記憶に残っております。改めて厚く御礼申し上げます。

さて、本校はさる2025年3月に第75回生236名を送り出し、4月には新たに第78回生240名を迎えました。生徒たちは「自律自啓」「誠実勤勉」「和協責任」の綱領のもと、先輩方が築かれた「高いレベルでの文武両道の伝統」を継承し、自らの可能性の追求と夢の実現に向け、日々研鑽を積んでおります。

教育活動においては、探究学習の一層の深化を図るとともに、第二期の三年目を迎えたスーパーサイエンスハイスクール(SSH)の取組を充実させております。本年も、海外研修を通じたグローバル教育の推進や、理系女子育成プログラムなど、既存の枠を超えた多様な学びを展開しております。

また、部活動等においても、まさに「文武両道」を体現する活躍が見られます。漕艇部及びフェンシング競技のインターハイ出場に加え、全国高等学校総合文化

祭へは県内最多の八部門で出場いたしました。なかでも放送委員会は、ビデオメッセージ部門で文部科学大臣賞(全国1位)を受賞するという快挙を成し遂げました。さらに、地学オリンピックでは本校生徒が日本代表として世界大会に出場し、銀メダルを獲得いたしました。こうした果敢な挑戦と成果は、私たちに大きな感動と誇りを与えてくれます。

8月に開催した学校説明会では、代表生徒が中学生に向けて「大変なことでも挑戦し続けられるのは、支え合える仲間が青高にはいるから」と語っていました。青高の真の魅力は、学習環境の充実にとどまらず、切磋琢磨の中で育まれるこの「絆」にこそあるのだと、改めて強く感じました。そしてこの絆が、卒業後も同窓会という形で全国に、特にこの東京の地において力強く受け継がれていることに、深い感慨を覚えております。

青森から遠く離れた首都圏において、力強い組織力を持つ東京青高同窓会は、現役生徒や教職員にとって、



まさに「希望の羅針盤」です。皆様が各界の第一線でご活躍される姿、そして故郷を思うその情熱こそが、後輩たちの志を高く掲げる何よりの道標となっております。

令和7年度の幕開けに際し、私は生徒たちに「高い志」を持ってほしいと伝えました。その実現のためにも、多感な時期に好奇心を揺さぶる体験や多様な出会

いを提供できるよう、学校として一層尽力してまいり所存です。

結びに、東京青高同窓会の皆様のますますのご健勝とご発展を祈念するとともに、今後とも母校への変わらぬご厚情を賜りますようお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

## 青森高校同窓会 会長 あいさつ

# ラッキーナンバーが揃う日に向けて

青森高校同窓会 会長 沼田 廣（青高19回）

東京青高同窓会の皆様には日頃より本校同窓会へのご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、青森では、2025年8月9日（土）夕刻より、ホテル青森において同窓会総会及び懇親会が開催されました。その際、東京青高同窓会の永田雅之会長にご来賓としてご出席いただき、改めて感謝申し上げます。今回、物価高のため入場券を7,000円に再値上げせざるを得ませんでした。例年並みの500名を超える参加者があり大変賑わいました。今年は、平成8年8月8日とラッキーナンバーが三つ揃う良き日の開催となります。東京の青高同窓会の皆様も旧友や恩師との再会を果たす機会ですので、是非ご参加下さい。

また、本校同窓会では、在校生が進路や職業を考える際の参考にしてほしいと、同窓生の中から特に活躍されている方を講師としてお願いし、講演会を行っています。今回は、10月16日に青高29回生の九州大学大学院理学研究院教授の奈良岡浩さんを招聘し、「研究すること：宇宙から生命」と題する講演でした。奈

良岡さんは、はやぶさ一号が小惑星「イトカワ」より持ち帰った微量の試料を分析された方として有名です。はやぶさ一号のプロジェクトマネージャーは弘前高校出身ですが、この青森県コンビの活躍が素晴らしいと思いました。



さらに、エポックとして、青高4回生の故吉川キヌさんから5億3,400万円という多額の寄付があり、後援会の方で受け取りました。在校生への奨学金に使ってほしいという故人の遺志がありましたので、これを社債と国債で運用し、その利息を奨学金に回し持続可能な奨学金制度として今年度から実施することになっています。

結びになりますが、東京青高同窓会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝、ご多幸を祈念申し上げ、ご挨拶といたします。

## 受付担当当番回期 代表 あいさつ

### 先人のことば胸に

受付担当 塩山 勇（青高36回）

会報第42号の発行お慶び申し上げます。また、今まで東京青高同窓会を支えておいでの役員、事務局、幹事、各回期の皆様には厚く御礼申し上げます。

次回、第48回の総会・懇親会では、私たち第36回生が受付を担当いたします。みなさま、よろしくお願ひ申し上げます。

早いもので私たち36回生が本会の企画を担当してから10余年が経ってしまいました。この間、コロナ禍による対面での総会開催中止等もあり、われわれは卒業回期と当番回期の関係さえもあやふやとなっておりましたが、「どうやら36回生が2026年度の総会の受付担当当番になる」ことが分かったのは2023年の半ばであったと記憶しております。



その後、企画回期の年の12月15日の忘年会で将来の再会を期して記した寄せ書きを出発点として連絡を

開始したものの、転勤、家庭の事情等により東京圏から転出された方も多数おりました。改めてつてを頼って、総会に向けた再始動の飲み会の開催にこぎつけたのは2023年12月27日水曜日の夜。丸の内のビル地下街の居酒屋に集まったのは6人でした。このとき以来、互いに声を掛け合い、現在、東京、青森を合わせて約20人の同期に総会の参加を申し出てもらうに至りました。協力いただける同期のみなさん、どうもありがとうございます。

この紙面をご覧になっておいでのみなさまの中には、青森高校を卒業後、県内に進学、就職して県を支えていらっしゃる方もおいででしょう。私自身は、高校卒業後、県外に進学、就職し、遠く離れておりますが「青森のことがわかり、青森のために行動できる。その様な人間が東京にいる。それは非常に重要なことである。」と、ある先人に言われたことを胸に同窓会活動に参加しております。

これまで36回生で当番を担当されたみなさんをはじめ、同窓会に参加・協力してきた同期は沢山いると思います。この紙面を借りて御礼申し上げます。

それでは皆様、5月10日に上野精養軒で開催される同窓会受付でお会いできることを楽しみにしております。

## 企画担当当番回期 代表 あいさつ

# 世代を超えて交わり刺激し合える場づくりしたい

企画担当 野村 亮（青高51回）

今年の第48回総会・懇親会において、私どもの学年は、正副会長をはじめとする運営体制のもと、第二部講演会の進行ならびに第三部懇親会の企画を務めることとなりました。微力ではありますが、諸先輩方から受け継いできたこの会の良き伝統を大切にしながら、当番回期一同、心を込めて準備を進めています

今回の企画では、第二部において、青森を題材とした講演の時間を設けました。講師には、本校卒業生であり、国内外の企業経営に携わってきた経験を持つ経営コンサルタントをお招きし、経営の視点から見た青森県の課題と可能性について語っていただきます。母校、そして故郷の未来を改めて考える機会として、皆さまにとっても示唆に富む時間となれば幸いです。また、第三部の懇親会では、例年の慣例に倣い、地元青森の酒や酒肴を用意いたします。毎年、企画担当回期が頭をひねりながら工夫を重ねてきた大切な時間でもあり、私たちの代としても、青森らしさと親しみを感じていただけるひとときとなるよう準備を進めています。

昨年、私たちの代は母校同窓会の幹事を務めました。私自身は東京からの関わりとなり、運営の中心にいたわけではありませんが、その過程で二十数年ぶりに多くの同級生と再会する機会を得ました。久々に顔を合わせ、ワイワイと語り合いながら物事を進めていく中で、発言の一つひとつの濃さや、自然と役割を担い合いながら前へ進んでいく遂行力、調整力、そしてひとたび団結したときに生まれる爆発力のようなものを、随所に感じました。青高を離れて久しく忘れていた、高校時代のあの空気——優秀な仲間と囲まれ、刺激を受け続けていた感覚が、鮮やかによみがえった瞬間でもありました。私は当時、青高の末席を汚したに過ぎませんが、同級生や諸先輩方と接する中で、この学校

が長年にわたり育んできた人の力、その層の厚さを、改めて実感しました。

そして今回、本会の企画担当当番を務めるにあたり、青高生ならではのエネルギーが、世代を超えて自然に交わり、互いに刺激し合える場をつくりたい——その思いを、強く抱いています。私たちの代は昭和57年生まれ—昭和末期の空気を知る最後の世代でもあります。当番を担当する世代も、まもなく平成生まれの世代に変わります。彼らの世代においては、同窓会の捉え方や関わり方も、これまでとは少しずつ異なるものになっていくでしょう。本会は、年齢や立場を超え、同じ原点を持つ者同士が集い、新たな気づきや学び、そして活力を得られる、極めて貴重な場です。その価値を大切に守りながら、次の世代へとどうつないでいくか。時代の節目に差しかかる今、私たちはその問いと、これまで以上に丁寧に向き合う必要があると感じています。

SNSの普及や交通網の発達により、地元や友人との距離は、以前よりも格段に近くなりました。近い将来、同窓会の運営を担う世代の顔ぶれも大きく入れ替わっていくでしょう。そうなれば、価値観や人とのつながり方も、さらに多様化します。人口減少という大きな流れの中、会員数や参加者数の減少という課題にも直面する今、懇親会を単なる懐旧の場にとどめるのではなく、世代を超えた交流の中から、新たな価値や学びが生まれる時間として磨き上げていくことこそが、いま企画担当回期に託された役割なのではないかと考えています。

この懇親会が、再会の喜びにとどまらず、新たなつながりと発見が生まれる場となり、次の一年への活力へとつながることを願っております。

## 特集1：本会の現状と取り組み

### 収支構造の現状と運営合理化（電子化）推進

本会ならびに総会・懇親会の収支が厳しい状況が続いています。この問題の状況、対応策について、直近の幹事会資料や正副会長連絡会の議論などをもとに解説します。（文責：会報委員会）

#### ① 総会・懇親会の赤字について

本会は、会の運営は年会費で、総会・懇親会の運営は参加費でまかなうのを原則として予算を立てています。しかし、通信費、印刷費は値上がりが続き、また精養軒の費用も酒の持ち込み料が追加され、会場費が上がり、支払いは増えています。料理を減らし、230名の参加に対して145名分としましたが、値引きが減額されたため、支払額は減りませんでした。

この状況から、精養軒への支払額は200万円を確保しなければならないと判明しました。2025年度は、総会の参加者数が予算を下回ったため、この費用をまかなえず、総会・懇親会の費用に大きな赤字が生じました。正副会長は「総会参加者が230名にとどまったのは、われわれの集客努力が不十分であったため。大変申し訳ありませんでした」と述べています。

しかし、年会費も本会の運営で使い切っており、補填するだけの収入を見込めなかったことから、2025年9月の幹事会において、2025年度内で実施可能な支出削減措置として、会報第42号（本号）の印刷を取りやめることを決定しました。

このように、総会の開催には、精養軒への200万円＋諸費用で約250万円かかり、これを参加者からの収入でまかなうには、相応の参加者数が必要であり、下回った場合には、そのまま総会・懇親会は赤字になるというのが、現在の総会・懇親会の収支構造です。

#### ② 懇親会参加費の改定（8,000円 → 10,000円）

事務局は、参加費が8,000円では300人でも赤字ギリギリ、10,000円では250人内外でなんとか成り立つと試算しました。この試算を2025年9月の幹事会において提示し、議論を経て、2026年5月の総会・懇親会から参加費を8,000円から10,000円へ改定することが承認されました。

総会参加者や会費納入者の減少が続く上、景気も上向いているとは言えない中、参加費の値上げは賛同を得にくい提案でした。しかし、総会・懇親会を今後も開催し続けるためには、参加者が300人集まらないという事態が発生しても収支が成り立つよう計画を立てられる構造が必要でしょう。今回の改定はそのことを踏まえた決定といえるでしょう。

正副会長は、「会員の皆様の負担が増えることは、たいへん心苦しいことです。しかし、何卒ご賢察の上、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。」と理解を求めています。

#### ③ 会報の印刷取りやめ（2026年3月発行分）

「総会・懇親会の赤字について」の説明にもありますように、2025年9月の幹事会において、会報第42号の印刷取りやめを決定しました。従いまして、2026年5月に向けた総会資料送付時には会報は同梱されません。代わって電子版の閲覧ができるよう、閲覧方法等を記載した案内を同梱します。「電子版の読み方がわからない」というご不安をお持ちの方は、この案内を参照してください。

今回の印刷取りやめは、「会報を廃・休刊する」という決定ではありません。また、「恒久的に印刷をやめる」と決定したわけでもありません。会報は、本会の機関紙であり、本会の活動を残す記録媒体です。これらの使命は印刷ができなくても果たすべきもので、できるだけ残すことが重要だからです。一方で、印刷と送付は会の運営の大きな負担であるのもまた確かです。印刷した会報を楽しむには、健全で余力のある会の運営を確保することが欠かせないでしょう。

#### ④ 会員管理システム「ぜぶらる」の導入推進

「ぜぶらる」は、多くの大学同窓会、スポーツクラブ等が利用している会員管理システムです。本会は、

このシステムを導入しようと検討しています。

現在、会員の住所・連絡先等の管理は、各期の配布先管理担当者による手作業が中心となっています。また、これをまとめる正副会長側の担当者も手作業の結果を収集する都合から多くを手作業に頼っています。この方法には、1) 会員自身が自分の配布先情報を修正・削除できない。2) 各期の担当者と事務局とのやり取りに手間と印刷費と通信費が発生する。3) 配布先情報に誤りが多い。4) 各期の担当者の引き継ぎ負担が大きい、あるいは引き継ぎできないままになる。といった問題があります。1) については、異動情報は、本人→事務局→各期担当者という経路が使われており、事実上、事務局が介在した運用になっています。また、配布先管理担当者の認識違いが、個人情報の不適切な利用をもたらしてしまった事態も発生しています。2) については、通信費・印刷費の値上げの影響も受けています。3)、4) については、会員本人、各期の担当、事務局の三者が疲弊し正確な情報を授受できなくなっている結果と考えられます。

「ぜぶらる」の導入は、このような現状の打開策となるものです。まず、各期の配布先情報管理者が不要になり、会員本人による個人情報の管理が可能になります（本人の承諾のもと代行する方法もとれます）。会員情報が一元管理され、転記ミスや更新漏れを減らせます。引き継ぎ時の逸失のような事態も減らせます。また、多くのクラウドサービスが会員ごとの月額課金方式であるのに対し、「ぜぶらる」は、収納代行機能を使わない場合は無料で運用できます。本会や会員に対して、登録費用や月々の課金をせずに会員管理機能が利用できるのです。将来的には、収納代行も検討できます。一回あたりの手数料がかかりますが、年1回という本会の年会費の支払いに向く方法であり、振込取

扱票の印刷、振込手数料の本会負担の解消が見込めます。

このように、「ぜぶらる」の導入は、合理化や電子化にとどまらず、「同窓会の運営を次世代へ負担なく引き継いでいくため」の礎として位置づけられるものです。

本会は、この「ぜぶらる」の導入について、段階的に推進する計画です。導入計画は次のとおりです。

- ・ 2025年9月、幹事会に導入検討を提案
- ・ 2025年12月まで幹事が試用
- ・ 2026年1月、正副会長が導入推進承認を決定
- ・ 2026年3月、幹事会での承認（予定）
- ・ 2026年5月、第48回総会で承認（予定）
- ・ 仮運用を開始、本会側がエクセル等で保持している会員情報を「ぜぶらる」へ移行する
- ・ 2027年3月、幹事会で、会員側での運用について承認、運用を開始する

なお、運用開始に当たっては、会員のみなさんが戸惑うことがないように、利用方法の紹介、対面やオンラインのチュートリアル開催などの支援策を計画しているとのことです。

## ⑤ 本会の存続と未来のために

総会・懇親会の赤字、それに伴う会報の印刷取りやめ、総会参加費の改定など本会の運営に難しい問題があること、会員管理システムの導入を推進することなどを解説しました。本会のこれからの考える上で、いずれも重要な問題であると思います。会員のみなさんには、引き続き本会の活動にご理解、ご支援をお願いするものです。会報委員会も、これらの取り組みについて、今後も継続して取材を続け、みなさんへお伝えしたいと思います。

## 特集 2: 第50回記念総会に向けて

### 特別委員会の設置と活動日程

本会は2028年に第50回記念総会という大きな節目を迎えます。この節目にふさわしい記念事業を実施すべく、2025年9月の幹事会で特別委員会の設置が提案・承認されました。（事務局）

#### 【過去の記念総会について】

本会は、これまで、第30回・第40回に記念総会を開催しています。各々の回に特別委員会を設置し、記念事業を立案・実施しました。第30回記念総会については、会報第13号、第14号に、第40回記念総会については、会報第31号、第32号の記事を参照してください。当該号がお手元に会報がない方は、ウェブサイトの「会報バックナンバー」から参照できます。

#### 【第50回特別委員会の設置】

本会は、第50回記念総会についても特別委員会が必要と考え、2025年9月の幹事会において、特別委員会の設置と特別委員会の活動日程が承認されました。その後、2026年2月の役員会で、特別委員会の体制が承認されました。この体制と日程については、2026年3月の幹事会を経て、第48回総会に諮る見通しです。

特別委員会は、50年の節目を意義あるかたちで迎えられよう、記念総会の企画・運営を図ります。

#### 【記念事業の候補について】

記念事業については、特別委員会がこれを企画することになります。特別委員会は、みなさんからの意見、提案を募る機会が設けられればと考えています。

ちなみに、これまでの記念総会では、次のような事業を実施しています。

- ・ 母校への記念品贈呈・植樹
- ・ 卒業生への記念品贈呈
- ・ ウェブサイトの設置
- ・ 会報記念総会特別号の発行

また、これら事業の財源とする賛助金も募っています。賛助金は特別会計として計上し、これまでは卒業生への記念品の製作・送付に当てられています。

#### 【ご参加・ご協力をお願い】

第50回記念総会を実りあるものとするには、みなさんのご協力が欠かせません。ご意見、ご提案などがございましたら、事務局へお寄せください。特別委員会へ取りつぎいたします。

### 第50回記念総会の特別委員会の活動日程

2026年2月：役員会承認現在

- ・ 2025年9月：幹事会、特別委員会設置について提案、準備開始を了承
  - ※ この間、特別委員会の体制、方針等を準備
- ・ 2026年3月：幹事会、特別委員会の体制等について幹事会で承認
- ・ 2026年5月：総会（48回）、特別委員会設置を承認
  - ※ この間：特別委員会の活動開始、記念事業の検討
- ・ 2027年3月：幹事会、50回記念事業を承認（賛助金について依頼）
  - ※ 実質的な賛助金募集期間
- ・ 2027年5月：総会（49回）、50回記念事業を承認
  - ※ この間：記念事業の実施
- ・ 2028年3月：幹事会、記念事業報告承認、会報記念準備号を承認、発行
- ・ 2028年5月：第50回記念総会、記念事業報告を承認、事業実績を発表、祝賀する
- ・ 2029年3月：幹事会、会報50周年記念号を承認、発行
- ・ 2029年5月：総会（第51回）、最終報告をもって特別委員会を解散する

## 事務局から年会費納入のお願い

事務局の運営、会報の制作等は、皆様の会費で成り立っており、予算は逼迫しております。恐縮ではございますが、今年度の年会費（2,000円）の納入をお願い申し上げます。

会報、ウェブサイトに掲載の口座へ振込みいただけます。振込取扱票が郵送されている方も、できるだけ銀行振込みをご活用ください。また、総会受付でのお支払いも受け付けております。

## 年会費の納入はネットバンキングをご活用ください

| 他金融機関からの振込  | ゆうちょ銀行からの振込                               |
|---|---|
| <p>総合口座<br/>〈店名〉 ○五八<br/>〈店番〉 058 普通預金<br/>〈口座番号〉 4567055<br/>東京青高同窓会</p> | <p>振込口座<br/>00130-6-46609<br/>東京青高同窓会</p> |

## ウェブサイトやFacebookへはこちらから

|   |   |  |
|---|---|--|
|    | <a href="http://www.tokyo-seikou.jp">www.tokyo-seikou.jp</a>              |  |
|    | <a href="https://tokyo-seikou.connpass.com">tokyo-seikou.connpass.com</a> |  |
|    | @tokyo_seikou   |  |
|   | tokyo.seikou  |  |
|  | @tokyo-seikou   |  |
|  | seikouad  |  |

## 東京青高同窓会を応援しております

|  |  |
|--|--|
| <p>青高 29 回<br/>硬式野球部 53 年卒<br/>トキ デンタルクリニック<br/>土岐 孝雄</p> <p>〒981-3132 宮城県仙台市泉区将監 1 3 - 7 - 5<br/>TEL 022-771-1288</p> | <p>青高 35 回<br/>株式会社スーパーオフィス<br/>代表取締役<br/>五日市 文雄</p> <p>〒171-0022 東京都豊島区南池袋 2 丁目 4 9 - 7<br/>池袋パークビル 1 階</p> |
| <p>青高 31 回<br/>東京青高同窓会 会長<br/>青森高校硬式野球部 OB 会甲田クラブ会員<br/>永田 雅之</p>  | <p>青高 58 回<br/>一般社団法人あおつな創出プロジェクト<br/>理事<br/>大澤 徳</p>  |
| <p>青高 32 回<br/>東京青高同窓会 事務局長<br/>久保秋 真</p>  |  |

発行：東京青高同窓会（会長：永田 雅之）

編集：会報委員会（委員長：大澤 徳）

発行日：2026年（令和8年）3月1日

本紙への原稿の依頼・ご意見は会報委員会へ

E-mail: [genkou@tokyo-seikou.jp](mailto:genkou@tokyo-seikou.jp)

本会への連絡：事務局：久保秋 真（くぼあき しん）

E-mail: [secretariat@tokyo-seikou.jp](mailto:secretariat@tokyo-seikou.jp)

TEL: 070-2832-4491